

報道関係各位

患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活の実態を調査 ご遺族約 4800 名を対象に全国調査実施

2018 年 1 月 26 日

国立研究開発法人国立がん研究センター

国立研究開発法人国立がん研究センター（理事長：中釜斉、東京都中央区）がん対策情報センター（センター長：若尾文彦）は、がん、心疾患、肺炎、脳血管疾患、腎不全で亡くなった患者さんのご遺族を対象に、亡くなる前に利用した医療や療養生活等に関する全国調査を行います。

本調査は、厚生労働省の委託事業として実施するもので、「大切な最期の時間をその人らしく、より良く過ごすことができる医療」を実現するために、がん患者等の療養生活の最終段階の実態を把握し、医療や療養環境の改善につなげることを目的に行います。

今回の調査は、無作為で選出した全国約 4800 名のご遺族へご協力をお願いします。設問は、がん等の疾患に罹患した患者さんが亡くなる前に利用した医療や生活状況、ご遺族が介護を通して感じたこと等に関して、主に選択式でご回答いただきます。調査票は匿名で回収し、国立がん研究センターにて集計後、厚生労働省に報告書として提出するほか、国立がん研究センターがん対策情報センターのホームページでも 2018 年 4 月以降に公開する予定です。

また、今回の調査方法、調査結果などを踏まえ、来年度（2018 年度）には、より大規模に調査を行う予定です。

【調査概要】

■調査対象者

厚生労働省における所要の手続きを経た上で、人口動態調査の死亡小票の情報をを用いて、2016 年に、「がん」、「心疾患」、「肺炎」、「脳血管疾患」、「腎不全」で亡くなった患者さんの中から、無作為に選ばれた約 4800 名（がんで亡くなった方 3200 名、心疾患・肺炎・脳血管疾患・腎不全で亡くなった方それぞれ 400 名）のご遺族の方々に対して、調査票を送付します。

■調査項目

患者の方々が亡くなる前に受けた医療や療養生活、ご遺族の方々が介護を通して感じたこと等についてお伺いいたします。例えば、患者さんが実際に受けられた医療の質や療養生活の状況、患者さん自身の医療に関する希望、ご遺族の介護体験などについて、「大切な最期の時間をより良く過ごすための医療」の実現に向けた意見を伺うための設問を設定しています。

■調査票送付期間・返送期間

調査票は、2018 年 1 月末頃より順次送付し、調査票の到着から 2 週間を目安に返送いただく予定としています。

■回答方法

選択式で実施します。また、自由に意見を記入していただく欄も設けています（回答はすべて任意です。）。

■解析・結果の報告

回答いただいた調査票は、国立がん研究センターがん対策情報センターで集計を行います。調査の結果は、厚生労働省に報告書として提出するほか、2018 年 4 月以降に当センターがん対策情報センターのホームページや、論文等で公表の予定です。

■本調査の詳しい内容は、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/sup/project/090/index.html>

■個人情報について

本調査によって得られた個人情報は、調査事務局（国立がん研究センターがん対策情報センターがん医療支援部）内に保管されます。調査事務局である国立がん研究センターがん対策情報センターは、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）適合性評価制度による ISO/IEC27001 認証を取得しており（登録証番号：JQA-IM1418、平成 29 年 3 月 17 日付）、本調査によって得られた個人情報は、当センターの基本方針に従って、適切に管理します。

<本調査に関するお問い合わせ先>

国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援部

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

メールアドレス：mfs@ml.res.ncc.go.jp

電話： 03-3547-5201（内線 1707 または 1709）

担当者：竹内恵美，中澤葉宇子，加藤雅志（月～金：10:00～16:00 祝祭日を除く）

<その他全般>

企画戦略局 広報企画室

TEL：03-3542-2511 E-mail：ncc-admin@ncc.go.jp

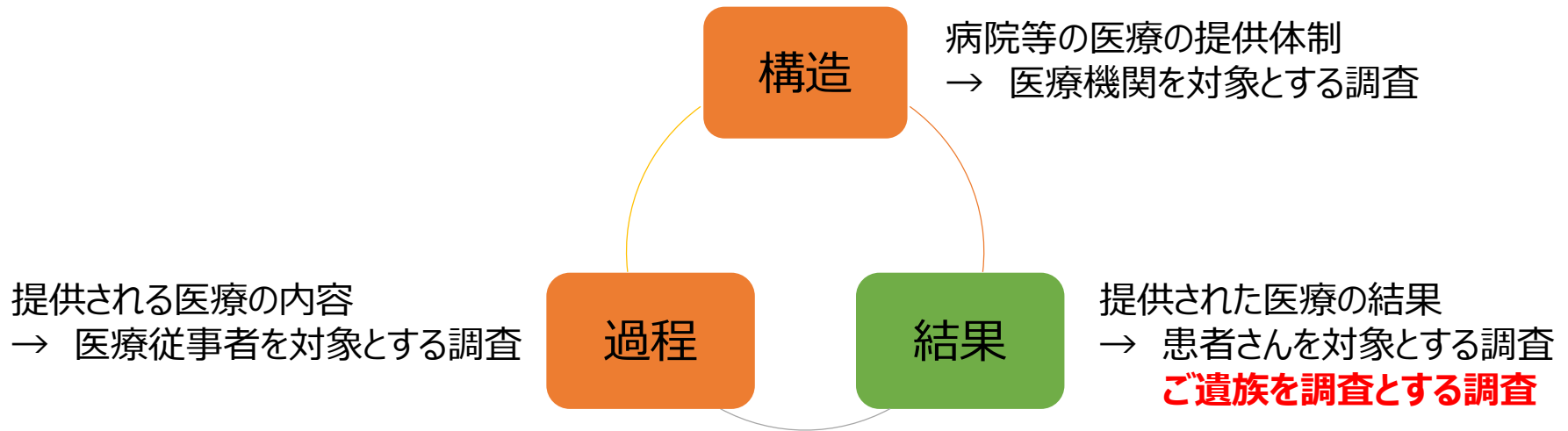
厚生労働省委託事業
**患者さんが亡くなる前に利用した医療や
療養生活に関する実態調査 概要**

国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援部

なぜご遺族に調査を行うのか

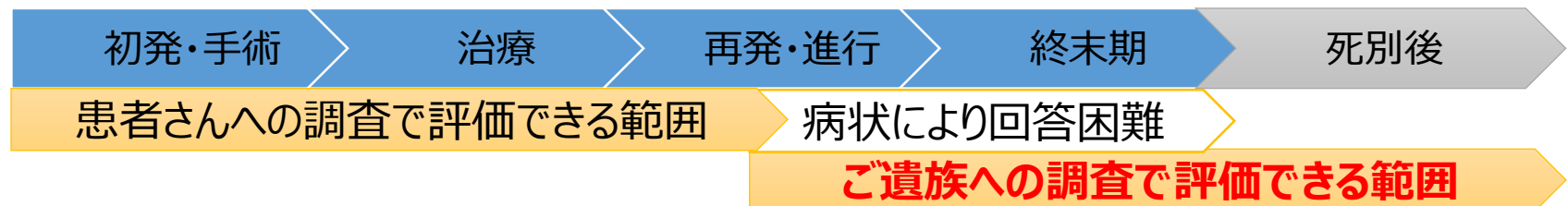
● 医療の質の評価

大切な最期の時間をその人らしく、より良く過ごすことができる医療を実現するため、患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活の実態を明らかにすることが必要である



「がん治療と並行されて提供される医療」の結果だけではなく（患者さんを対象とする調査）
「患者さんが亡くなる前に提供される医療」の結果、「望ましい最期」が達成されているかについても評価することが求められている（ご遺族を対象とする調査）

● 医療の質を評価するための調査の実施時期と対象



わが国で行われている調査

日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団により、ご遺族を対象に患者さんが利用した医療の質を評価するために、J-HOPE（The Japan Hospice and Palliative Care Evaluation） 研究が行われている。

- 目的：ご遺族から見た、患者さんが亡くなる前に提供された医療の質や療養生活の質を明らかにする
- 対象施設：全国のホスピス・緩和ケア 病棟と在宅で緩和ケアを提供する施設
- 対象者：対象施設で亡くなられたがん患者さんのご遺族
- 調査方法：自記式質問紙を用いた郵送調査

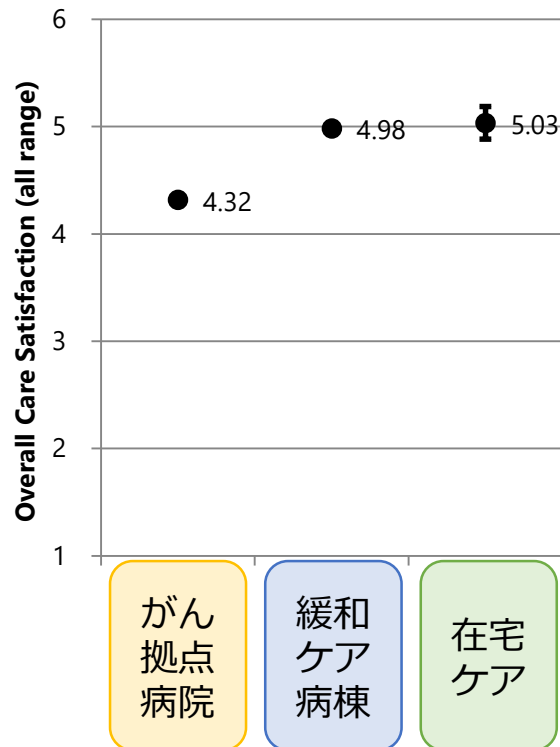
	緩和ケア病棟		在宅ケア施設		一般病棟	
	施設数	回答数	施設数	回答数	施設数	回答数
2007年	100	5311(66%)	14	292(65%)	-	
2010年	103	5820(60%)	15	698(68%)	24	1279(55%)
2014年	133	7294(69%)	22	1018(70%)	20	841(55%)

在宅や一般病棟で亡くなられた患者さんの調査が十分に行われてない

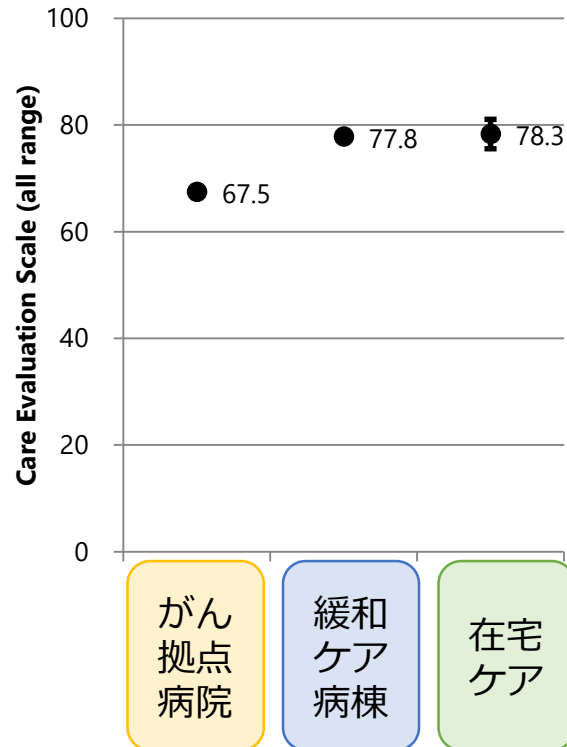
わが国で行われている調査

J-HOPE研究の結果

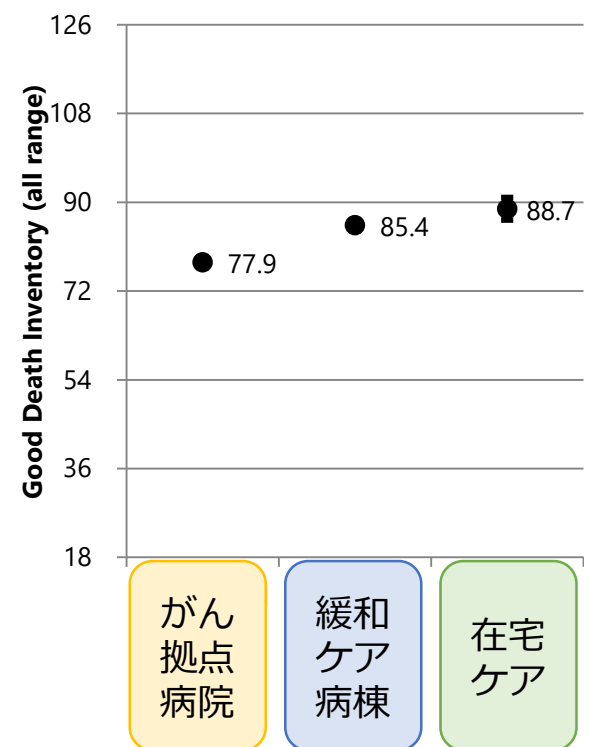
亡くなる前に受けた医療 満足度



亡くなる前に受けた医療 構造・過程



亡くなる前の療養生活 望ましい最期

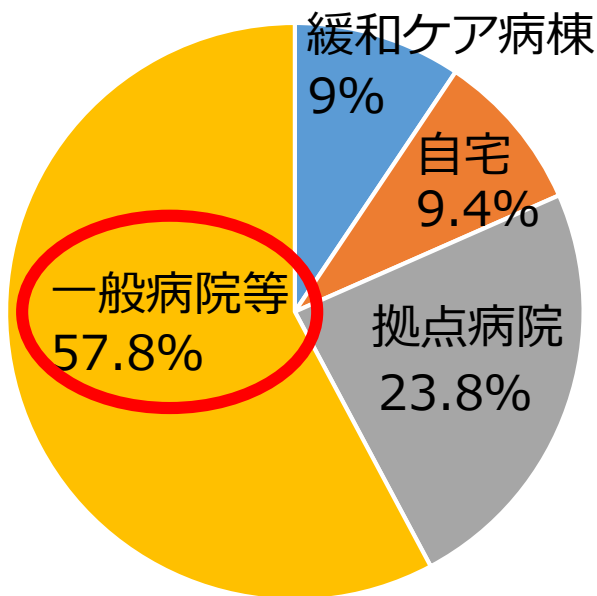


調査結果の代表性に課題がある

患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活に関する 実態調査

先行研究の課題

- 一般病院や自宅死亡の調査対象者が限定されている
- わが国のがん患者さんの死亡場所と比べて調査対象者に偏りがあり、結果の代表性に課題がある



がん患者さんの死亡場所（2013）

わが国全体の実態を明らかにするため、厚生労働省働省委託事業として国立がん研究センターが全国調査を実施する

平成29年度：一次調査

平成30年度：二次調査（予定）

患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活に関する 実態調査

目的

大切な最期の時間をその人らしく、より良く過ごすことができる医療を実現するため、患者さんが亡くなる前に利用した医療や療養生活の実態を明らかにする

対象者

厚生労働省 人口動態調査の死亡者情報より、2016年に「がん」「心疾患」「肺炎」「脳血管疾患」「腎不全」で亡くなった患者さんの中から、無作為に選ばれたご遺族 約4800名

調査方法

郵送によるアンケート調査

調査項目

患者さんが亡くなる前に実際に受けられた医療の質や療養生活の状況
患者さんの医療に関する希望
ご遺族の方々が介護を通して感じられたこと 等

調査実施時期

調査票は、2018年1月末頃より順次送付